



アクセシビリティ推進委員会

年報

2023

障がい学生支援の実施状況について



巻頭言

障害者差別解消法の改正(令和3年5月)により、令和6年4月から私立大学においても合理的配慮の提供が法的に義務付けられることになりました。これを受け、文部科学省においては「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」を改正したほか、「障害のある学生の修学支援に関する検討会」を開催し、大学等において適切な修学支援を行うために必要な事項とその考え方を「第三次まとめ」(令和6年3月)としてとりまとめました。「第三次まとめ」は、障害のある学生の修学支援に関してその在り方や具体的な方策、そして不当な差別的扱いや合理的配慮の考え方等についてとりまとめた「第一次まとめ」(平成 24 年)及び「第二次まとめ」(平成 28 年)につづき、この間に浮かび上がってきた様々な課題をふまえて検討されたものです。

本学においては、これまでも大学の理念と法令遵守の観点から障害学生支援に真摯に取り組んできており、この度の法改正によって現在の体制等に大きな影響を受けるものではありません。しかし、「共生社会」の一層の促進を図ろうとする法改正の趣旨と「第三次まとめ」に示された障害学生支援に係る様々な課題を鑑みると、本学としてもこの機会にあらためて障害学生支援のあり方を確認しておくことが重要です。特に「第三次まとめ」で繰り返し強調されている“障害学生支援は大学組織全体の責任として行うもの”という指摘をふまえれば、すべての教職員が法の理念と障害学生支援に対する正しい理解をもつ必要があります。

アクセシビリティ推進委員会では、これら障害者差別解消法改正の趣旨と「第三次まとめ」の内容をふまえ、障害学生支援に係る基本的な事項のポイントを簡潔に示したリーフレットを発行しました(4月中旬発行)。「第三次まとめ」にもあるように、障害のある学生が他の学生と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することができる環境を構築することは、コンプライアンスの観点からだけでなく、開かれた大学等として価値や魅力を高める重要な要素となります。この機会に、リーフレットなども参照しながらすべての教職員があらためて障害学生支援のあり方を確認するとともに、私たちアクセシビリティ推進委員会も支援体制の不断の見直しを図っていきたいと考えています。

なお、以上の動向に関する詳細は以下のURLにある「障害のある学生の修学支援に関する検討会」の「第3次まとめ」をご覧ください。

文部科学省：障害のある学生の修学支援に関する検討会（令和5年度）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/123/mext_01732.html



2024年3月31日

アクセシビリティ推進委員会委員長

松川 敏道

目次

- I アクセシビリティ推進委員会の概要……………p1
 - 1. アクセシビリティ推進委員会
 - 2-1. アクセシビリティ・学生スタッフ
 - 2-2. アクセシビリティ・学生スタッフ 支援別延べ人数
 - 3. 参考資料 障がい学生数
- II 合理的配慮の実施状況……………p2
 - 1. 情報保障（パソコンテイク・UDトーク・字幕修正作業・ノートテイク）
 - 2. ポイントテイク（筆記代行）
 - 3. 通学・移動支援
 - 4. 授業配慮の依頼状況
- III アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み ……………p4
 - 1. すきるupプログラム
 - 2. 社会で活躍している卒業生との交流会
 - 3. 就職支援
 - 4. 静かな空間の利用状況
 - 5. 学生面談の実施状況
- IV アクセシビリティ・学生スタッフの活動状況……………p6
 - 1. 支援者募集と説明会の実施状況
 - 2. テイク講習会／実践練習講習会の実施状況
 - 3. 式典情報保障
 - 4. UDトークに関する取り組み
- V アクセシビリティ推進委員の活動状況……………p8
 - 1. 関係機関の委員委嘱
 - (1) 日本学生支援機構（JASSO）
 - (2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）
 - 2. 発達障がいのある大学生への修学就職支援に関するFD/SD研修会
 - 3. 発達障がいの特性をもつ学生の就労に向けての支援に関する実践報告会
(学生相談室主催・学長裁量経費採択事業)
 - 4. 研修会・会議等の参加

I アクセシビリティ推進委員会の概要

1. アクセシビリティ推進委員会

・松川敏道（人文学部人間科学科／委員長）・藤野友紀（人文学部人間科学科）・田中敦士（人文学部人間科学科）・斉藤美香（心理学部臨床心理学科）・皆川雅章（法学部法律学科）・佐野友泰（心理学部臨床心理学科／副学長）・湯川郁子（経済経営学部経済学科）・ト部洋子（学生相談室カウンセラー）・辻由依（学生相談室カウンセラー）・樋田康宏（教育支援課）・島田尚規（教育支援課）・廣嶋 進（学生支援課）・佐藤博昭（学生支援課）・水上真一（サポートセンター）・青木美保（サポートセンター）・近藤真樹（障がい学生支援コーディネーター）
・藤原祐子（障がい学生支援コーディネーター）

2-1. アクセシビリティ・学生スタッフ

(人)

| 学科 | 経営 | 経済 | 臨床心理 | 新札幌計 | こども発達 | 人間科学 | 英語英米文学 | 法律 | 江別計 | 合計 |
|-----|----|----|------|------|-------|------|--------|----|-----|----|
| 1年生 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 1 | 1 | 4 | 6 |
| 2年生 | 0 | 1 | 5 | 6 | 0 | 9 | 0 | 0 | 9 | 15 |
| 3年生 | 1 | 0 | 1 | 2 | 2 | 4 | 0 | 5 | 11 | 13 |
| 4年生 | 1 | 4 | 3 | 8 | 4 | 8 | 4 | 1 | 17 | 25 |
| 計 | 3 | 5 | 10 | 18 | 6 | 23 | 5 | 7 | 41 | 59 |

※2024年3月31日現在

2-2. アクセシビリティ・学生スタッフ支援別延べ人数

(人)

| | パソコンテイク | UDトーク | ポイントテイク | 字幕修正 | 通学介助 | 計 |
|-----|---------|-------|---------|------|------|-----|
| 1年生 | 4 | 4 | 4 | 2 | 0 | 14 |
| 2年生 | 8 | 6 | 12 | 1 | 4 | 31 |
| 3年生 | 8 | 9 | 12 | 5 | 5 | 39 |
| 4年生 | 12 | 8 | 20 | 12 | 6 | 58 |
| 計 | 32 | 27 | 48 | 20 | 15 | 142 |

※2024年3月31日現在

3. 参考資料 障がい学生数

(人)

| | 聴覚 | 視覚 | 肢体不自由 | 病弱・虚弱 | 発達障害 | 精神障害 | 重複 | その他 | |
|----------|----|----|-------|-------|------|------|----|-----|----|
| 診断書のある学生 | 2 | 1 | 4 | 2 | 13 | 19 | 5 | 11 | 57 |
| 診断書のない学生 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | 3 | 1 | 4 | 2 | 13 | 19 | 5 | 11 | 58 |

※数値は診断書の有無にかかわらず授業配慮の依頼など何らかの支援を行っている学生数。2024年3月31日現在。

Ⅱ 合理的配慮の実施状況



1. 情報保障（パソコンテイク・UDトーク・字幕修正作業・ノートテイク）

通常の授業における情報保障

| 前 期 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 計 | |
|---------------------------|---------|-----|-----|-----|---|---|
| 情報保障を利用した学生数（人） | 2 | 0 | 0 | 2 | 4 | |
| 情報保障を行った科目数 ^{※1} | 2 | 0 | 0 | 4 | 6 | |
| ※2 | パソコンテイク | 1 | 0 | 0 | 3 | 4 |
| | UDトーク | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 字幕修正作業 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | ノートテイク | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※2023年9月30日現在

| 後 期 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 計 | |
|---------------------------|---------|-----|-----|-----|----|----|
| 情報保障を利用した学生数（人） | 2 | 0 | 0 | 1 | 3 | |
| 情報保障を行った科目数 ^{※1} | 12 | 0 | 0 | 1 | 13 | |
| ※2 | パソコンテイク | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | UDトーク | 10 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | 字幕修正作業 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | ノートテイク | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※2024年3月31日現在

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2. パソコンテイク：パソコンを用いた文字通訳、T-TAC Caption接続による文字通訳

UDトーク：音声認識による文字通訳

字幕修正作業：音声付動画への字幕作成・修正、YouTube等を使用して文字通訳

ノートテイク：手書きによる文字通訳

※3. 情報保障の支援では、テイクの場合1時間1,470円の謝金が学生スタッフに支払われます。字幕修正作業におけるテイク時間としての換算は、（動画時間数）×4倍で時間計算を行いました。

※4. 今年度は、手話通訳やロジャーを使用している情報保障は行いませんでした。

2. ポイントテイク（筆記代行）

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 計 |
|-----------------------------------|-----|-----|-----|-----|----|
| ポイントテイクを利用した学生数（人） | 0 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| ポイントテイクを行った科目数 ^{※1} 【前期】 | 0 | 16 | 6 | 6 | 28 |
| ポイントテイクを行った科目数 ^{※1} 【後期】 | 0 | 10 | 6 | 3 | 19 |

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2024年3月31日現在

※ポイントテイクでは、1時間980円の謝金が学生スタッフに支払われます。

3. 通学・移動支援

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 計 |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|---|
| 通学介助を利用した学生数（人） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 週あたりの登下校回数【前期】 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 週あたりの登下校回数【後期】 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※2024年3月31日現在

※学外からの通学介助では、1回500円（学内の移動介助は1回300円）の謝金が学生スタッフに支払われます。

4. 授業配慮の依頼状況

[前期46名] 肢体不自由学生3名、発達障がい・精神障がい学生26名、その他17名

[後期48名] 肢体不自由学生3名、発達障がい・精神障がい学生35名、その他10名

Ⅲ アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み



1. すきるupプログラム

すきるupプログラム（通称：すきっぷ）は、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの機関支援を受ける形で2020年度から実施していた「Tossプログラム（Transition Ogaru from School life to Social life Program）」をベースとしている。Tossプログラムは「目標設定スキル」、「コミュニケーション/社会性スキル」、「感情コントロールスキル」、「実行機能スキル」といった、4つのキースキルに焦点を当てた就労前支援プログラムである。すきっぷはTossプログラムから得た知識やスキルを活かしながら、本学の学生の特徴および学内での継続支援の視点を考慮して内容を再構成したものであり、2022年度から実施している。

2022年度は、1クール辺り5回（60分/回）のプログラムとし、年度内に3クールを実施した。しかし、1回あたり5回という回数は学生にとって参加しやすくなる一方、スキルが定着しにくく、また、60分という時間では学生個人の課題を深めることが困難であるという問題点があげられた。そのため、2023年度は2つのスキルを組み合わせ、1クール9回、1回あたり90分の構成とした。具体的には「前期：①スケジュール管理スキル＋②ヘルプを出すスキル（コミュニケーション）」、「後期：①スケジュール管理スキル＋②感情コントロールスキル」の内容構成とした。また、「目標設定スキル」は前期・後期両方のクールに取り入れた。プログラムの回数を増やしたことにより、学生が必要なスキルについて考え日常生活で試せる機会が増えたと考えられる。また、時間を90分に延長したことにより、学生個人の課題についてより深く検討することが可能となった。

2023年度、第1クールは3名、第2クールは4名（前半は3名、後半は1名増え合計4名）の学生が参加した。また、前期は1名が学外企業で、後期は1名が学内（図書館）で現場スキルトレーニングを行った。今後もすきっぷのプログラムと、スキルを試す場である現場スキルトレーニングを連動させながら、学生のスキル獲得のための支援体制を構築していきたい。

【辻由依】



2. 社会で活躍している卒業生との交流会

2024年3月2日、サポートセンター、キャリア支援課と学生相談室共催で、オンラインによる「社会で活躍している卒業生との交流会」を開催した。

オープン就労（障がいや病気を開示して就職すること）の場合、どのように職場に配慮を求めて就職活動したら良いのか、オープン就労で社会人として活躍している本学の卒業生2名を講師として招き、福祉的就労を検討している学生4名が参加した。卒業生から就職活動のときの不安や期待、今の職場での対人関係や仕事での工夫などが語られた。学生からの質問については、「週5で働くには自信がない」「生活費や奨学金返済の不安」等の質問があった。その質問に対して卒業生から「自分の体調に合わせて勤務時間を配慮して頂いたり、業務内容も職場の上司と支援者と相談しながら自分のペースに合わせて働くといいこと、職場に慣れるまで家族にサポートしてもらうことも必要であること」等、具体的かつ丁寧に返答していたことが印象的だった。参加した学生から「就週5で働ける自信がなく悩んでいたが、先輩方の話が聞けて就労支援について具体的な

イメージができて今後の就職活動の参考になった」「先輩に会えて楽しく、将来に希望がもてた」「将来のことが心配だったが、少し緩和された」等の感想が寄せられた。卒業生からも「不安を一人で抱えないで、周りに頼ったりしながら準備すると良い」と後輩へ温かい言葉もあった。学生にとって、卒業生との交流会が大きな心の支えになり、みんなでわからないことや不安なことを共有したり、経験者（卒業生）に聞いていくことで解決したり、いろんな就職活動の方法を知る機会となり、有意義な交流会だった。

障がいのあるなしに関わらず、誰もがその能力と適性に合った雇用の場に就き、卒業後も自立した生活を送ることができるように支援が必要である。これからもサポートセンター、キャリア支援課と学生相談室と学内外と連携しながら、学生の就労への不安軽減の対策、そして、地域への支援としてつなげて行きたいと思う。また、来年度も開催する予定。

【卜部洋子】

3. 就職支援

2024年1月24日／障がいのある学生のためのキャリアガイダンス（キャリア支援課主催）

※対面 参加学生4名

4. 静かな空間の利用状況

前期利用延べ人数 12名

後期利用延べ人数 0名

5. 学生面談の実施状況

2023年度入学生 入学前面談 6名実施

※在学生については、前期・後期終了後に、支援の内容やニーズを確認することを目的とした、振り返り面談を対面、電話等で実施。

IVアクセシビリティ・学生スタッフの活動状況



1. 支援者募集と説明会の実施状況

- 1) 新学期学年別ガイダンスでのチラシ配布・支援者呼びかけ
新入生のみ実施（障がい学生支援コーディネーターからの説明） 4月3日
- 2) 障がい学生支援者説明会
江別キャンパス 4月26日（説明者：5名、受講者：15名）
新札幌キャンパス 4月27日（説明者：2名、受講者：5名）



2. テイク講習会／実践練習講習会の実施状況

- 1) パソコンテイク講習会／実践練習講習会

<パソコンテイク講習会>
6月6日～6月29日（※両キャンパスにおいて3週にわたり開催）
（講師6名、受講者10名）

<パソコンテイク実践練習会>
7月3日～7月13日（※両キャンパスにおいて2週にわたり開催）
（講師9名、受講者10名）
- 2) ポイントテイク講習会

<ポイントテイク講習会>
6月19日～7月6日（※江別キャンパスにおいて3週にわたり開催）
（講師7名、受講者10名）



3. 式典情報保障

- 学位記授与式 IPTトークによる情報保障 3月15日
（参加者5名）



4. UDトークに関する取り組み

本学はこれまで聴覚に障がいのある学生に対して、パソコンテイクを中心とした情報保障を行ってきたが、今年度から講義の音声を自動で文字化する「UDトーク」という音声認識アプリを活用した支援を本格的に導入した。実際の講義では、教員がUDトーク専用の音声認識マイクを付けることにより、講義の音声が聴覚に障がいのある学生の手元にあるiPadにリアルタイムで文字情報として表記される。近年、このような音声認識ソフトウェアは精度が向上しており、障がいの有無にかかわらず、平等に学び、安心して学修できる環境が整いつつある。

UDトークを使用するにあたり、まずは支援機器の購入や使用環境の設定を行い、PEPNet-Japanなどの専門機関からのスーパーバイズや他大学の情報収集を行った。また、講義の形態により情報保障の方法としてUDトークが不向きな場合もあり、聴覚に障がいのある学生が履修する科目担当教員と事前の確認や情報共有が必要となった。

UDトークは数年前に比べ、音声認識精度は上がっているものの、教員の話し方やインターネット通信環境により、誤変換や文字化までの遅延が生じることがある。そのため、講義において、障がい学生への支援を行うアクセシビリティ・学生スタッフによる修正作業を行う必要があった。サポートセンターおよび支援学生にとっても初めての試みだったため、急遽外部講師および本学の教員を講師としてお迎えして、下記の通りUDトーク研修会を開催した。

《UDトーク研修会》

- * 日時 9月20日(水) 13:00～14:00
- * 場所 江別キャンパス
- * 講師 基礎編（講師：藤野友紀アクセシビリティ推進委員）
応用編（講師：北海道ろうあ連盟 永井千里氏）
- * 参加者 20名（教員2名 職員3名 学生15名）

上記研修会はUDトーク接続方法などの基礎的な知識習得だけでなく、遠隔授業による修正方法を実践形式で学ぶことができ、支援学生の技術向上や有効な活用方法の検討につながった。

今年度後期は9科目の講義においてUDトークを活用した情報保障を行い、うち5科目はアクセシビリティ・学生スタッフが講義で使用する専門用語などを事前に単語登録した。そのことにより、音声認識精度が上がり、誤変換の頻度を格段に減らすことができた。ほかにも、都度、聴覚に障がいのある学生と支援学生がともに講義のフィードバックを行い、実践・研究しながら支援の充実をめざした。

今後もUDトークによる情報保障を必要とする学生が増えることも見込まれており、パソコンテイクと併用しながらさまざま場面でUDトークを有効活用していけるよう、アクセシビリティ・学生スタッフの確保や養成、関係機関との連携に努めていきたい。

【近藤真樹】

Vアクセシビリティ推進委員の活動状況



1. 関係機関の委員委嘱

(1) 日本学生支援機構（JASSO）障害学生支援委員

松川 敏道（任期：2023年4月1日～2024年3月31日）

(2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）運営委員

藤野 友紀（任期：2023年4月1日～2024年3月31日）



2. 発達障がいのある大学生への修学就職支援に関するFD/SD研修会

2023年度発達障がいのある学生への修学就職支援に関するFDSD研修会を2023年7月27日に開催した。FDSD研修会の概要は表1の通りである。2021年度に実施した研修会を基礎編、2022年度はより具体的な支援場面を想定できるような具体例を取り入れた応用編とし、2023年度は部署間連携を含めており発展編と位置付けた。講師は末吉彩香氏（株式会社 Kaien／筑波大学人間系）で、3年連続開講とした。

研修会の内容としては、（Ⅰ）発達障害の基礎知識、（Ⅱ）高等教育機関における合理的配慮、（Ⅲ）障害のある学生の高大接続、（Ⅳ）障害のある学生に対する修学支援、（Ⅴ）発達障害のある学生に対するキャリア支援、（Ⅵ）架空事例の紹介、の大きく6つの区分について取り上げた。

（Ⅰ）では過去2回の研修会でも紹介した内容の振り返りとして、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症の概要と二次障害について扱った。（Ⅱ）では改正障害者差別解消法施行を踏まえ、不当な差別的取り扱いの禁止や合理的配慮の提供義務について改めて確認した。（Ⅲ）では学外連携のひとつとして、高大接続に向けた取り組みを紹介した。具体的には、現在全国の高等教育機関で実施されている障害のある高校生向けの大学体験

イベントや、他大学における合格者に対する入学前相談から入学後の支援提供までの対応プロセス等について扱った。（Ⅳ）では障害の学生の修学支援について、発達障害学生によくみられる状況やそれに対する支援の例、「学びのユニバーサルデザイン」に着目した事前

的改善措置について取り上げた。（Ⅴ）では発達障害学生のキャリア支援について、学生本人を中心とした学内部署及び学外支援資源の連携について紹介した。また、障害特性による社会生活上の困難さや苦手さだけに着目するのではなく、個々の多様な特性や能力とマッチする職場の開拓について事例を用いて説明した。（Ⅵ）では発達障害学生支援に関する架空のキャリア支援事例として「試行錯誤しながら社会人生活を送ったケース」、「体調や特性を勘案し自分のペースで働いたケース」、「合理的配慮を受けながら得意を活かして働いたケース」、「福祉サービスを利用してゆっくり自己理解を深めたケース」について紹介した。

表 1 2023年度FDSD研修会の概要

テーマ 発達障がいのある大学生への修学・就職支援（発展編）

～入学→修学→就職を支えるための部署間連携～

日時 令和5年7月27日（木曜日） 15:00～17:00

対象 特任や非常勤を含む全教職員

講師 末吉 彩香（株式会社 Kaien／筑波大学人間系）

開会挨拶 松川 敏道（アクセシビリティ推進委員会委員長）

司会進行 田中 敦士（アクセシビリティ推進委員会委員）

閉会挨拶 佐野 友泰（副学長）

参加状況

オンライン参加

教員26名 職員50名

オンデマンド参加

Teamsへのアクセスログ分析により集計（10月15日時点＝確定）

教員4名 職員8名

最終参加者

教員30名（昨年は 28名、25.9%） 職員58名（昨年は 84名、92.3%）

合計88名（昨年は112名、56.3%）

参加率45.6%（教員28.6% 職員65.9%）

母数：職員88名 教員105名 合計193名

（職員数は専任の事務職員と専門職、契約職員を加えた数値で、

7/27時点で療養・育児等による休職・休業中を除く）

本研修会の詳細な内容やアンケート結果等については、札幌学院大学総合研究所紀要第11巻(2023)に論文が掲載される予定である。

【田中敦士】



3. 発達障がいの特徴をもつ学生の就労に向けての支援に関する実践報告会 (学生相談室主催・学長裁量経費採択事業)

発達障がいの特性をもつ学生の就労支援は多くの大学での課題であるが、道内では本学の「すきっぷ」のような独自プログラムの実践を行っているのは本学のみである。そのため、本学での外部機関との連携の実践知や外部機関などのリソースを他大学（北海道障がい学生修学支援ネットワーク等）・関係機関とも共有する実践報告会を2023年8月23日、本学を会場としてハイブリッド形式で開催した。

当日は、12大学、1高専、5関係機関、1医療機関から57名の参加があった。プログラムでは、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの塚本氏、えべつ障がい者しごと相談室すてらの川田氏、酪農学園大学学生相談室の北山氏と本学学生相談室の辻カウンセラーからの実践報告があり、その後のディスカッションでは活発な意見交換がされ、今後のネットワークの必要性が改めて認識された。

【齊藤美香】



4. 研修会・会議等の参加

【研修会・会議出席】

<松川 敏道（教員）>

- 2023年5月29日 日本学生支援機構 令和5年度障害学生支援委員会
- 2024年3月14日 日本学生支援機構 令和5年度障害学生支援委員会

<藤野 友紀（教員）>

- 2023年6月12日 PEPNet-Japan第49回運営委員会
- 2024年2月29日 PEPNet-Japan第50回運営委員会
- 2024年3月12日 PEPNet-Japan第6回総会

<佐野 友泰（教員）>

- 2024年1月26日 令和5年度障害学生支援大学長連絡会議

<近藤 真樹（障がい学生支援コーディネーター）>

- 2023年9月7～8日 AHEAD JAPAN 2023年度全国大会
- 2023年11月7～8日 令和5年度障害学生支援実務者育成研修会応用プログラム

<藤原 祐子（障がい学生支援コーディネーター）>

- 2023年9月7～8日 AHEAD JAPAN 2023年度全国大会

【発表】

<藤野 友紀（教員）>

- 2023年11月5日 第19回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
セミナー「みんなで積極的に考えよう！聴覚障害学生のキャリア」



札幌学院大学アクセシビリティ推進委員会

発行日：2024年3月31日

江別キャンパス：〒069-8555 江別市文京台11番地

新札幌キャンパス：〒004-8666 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目1-1

電話番号：011-375-8567（江別キャンパス）

011-802-8635（新札幌キャンパス）

メールアドレス：shien@ims.sgu.ac.jp

（担当事務局：学生支援課学生支援係）